

小宮一仁 (1961-) は、日本の工学者。千葉工業大学教授。千葉工業大学元学長。学位は工学士、工学修士、博士 (工学)。

東京都に生まれる⁽¹⁾。幼少期は板橋区常盤台の曾祖父・祖父の家で育つ⁽²⁾が、重い小児喘息の治療のため医師である叔父の関口豊三から空気の澄んだ土地への転居を勧められ家族で埼玉県川越に移る。小宮は医学者でもあったこの叔父の影響を受け子供の頃から医師になりたいと思うようになった⁽³⁾。埼玉県立川越高等学校を卒業。叔父の出身大学医学部を受験し卒業後3年間浪人⁽⁴⁾するが合格かなわず早稲田大学理工学部土木工学科に入学した⁽⁵⁾。1987年3月早稲田大学を卒業し同大学大学院修士課程、博士後期課程⁽⁶⁾に進学、博士 (工学・早稲田大学) の学位を取得した。早稲田大学助手を務めた後、1994年4月助手として千葉工業大学に着任、1996年4月専任講師になった。1998年4月助教授昇進直後に千葉工業大学を退職、求めに応じてケンブリッジ大学に移り工学部専任助教として研究・学生指導の他、招聘されて欧州委員会の大規模プロジェクトに参画[1]、欧州諸国を奔走した。ケンブリッジ大学ではダーウィンカレッジに所属した[2]。2001年4月より千葉工業大学教授 (現在に至る)。全教員による選挙を経て、2012年6月29日、50歳で千葉工業大学学長 (第12代) に就任し2020年6月28日に2期8年間の任期を満了した。2020年6月29日より2024年6月28日まで学校法人千葉工業大学学事顧問。1999年からケンブリッジ大学協会及びダーウィンカレッジ協会の終身会員。2014年吉林大学より名誉教授の称号を授与され記念講演を行った。

欧州理事会「Construction Research, Development and Innovation Project」招聘研究者 (1998年～1999年)、欧州委員会「Brite Euram III Program」招聘研究者 (1998年～2000年)、国土交通省「大深度地下における環境に関する検討調査委員会」委員 (2002年～2004年)、独立行政法人日本学術振興会「科学研究費委員会」専門委員 (2008年～2009年、2011年)、人事院「国家公務員採用I種試験」試験専門委員 (2010年～2011年)、公益社団法人地盤工学会理事 (2011年～2013年)、同「地盤工学会誌編集委員会」委員長 (2012年～2013年)、人事院「国家公務員採用総合職試験」試験専門委員 (2011年～2013年)、公益財団法人千葉県産業振興センター評議員 (2013年～)、関東工学教育協会会長 (2016年～2017年)、公益社団法人私立大学情報教育協会常務理事 (2017年～2021年)、公益社団法人土木学会論説委員 (2019年～2021年)、日本大学再生会議委員 (2021年～)、他を歴任している。

主な受賞歴

- ・2022 関東工学教育協会表彰 協会貢献賞(個人賞)
- ・2017 関東工学教育協会表彰 協会貢献賞(個人賞)
- ・公益社団法人全国大学体育連合 2012 大学体育 FD 推進表彰

著書

共著

- ・「土質力学」⁽⁷⁾、彰国社、2000年 (2014年第5版増刷)
- ・「性能設計地盤工学」、山海堂、2007年
- ・「地盤工学における性能設計」⁽⁸⁾、丸善、2010年

編著

- ・「Underground Construction Technology in Japan」⁽⁹⁾ (英書)、丸善、2006年
- ・「薬液注入工法の理論・設計・施工」、地盤工学会、2009年 (2021年第2版増刷)
- ・「目から鱗のトンネル技術史」、土木学会、2009年
- ・「Recent Developments of Geotechnical Engineering」 (英書)、地盤工学会・中国土木学会、2010年

分担執筆

- ・「実験力学ハンドブック」、朝倉書店、2008年
- ・「Material with Complex Behaviour」 (英書)、Springer、2010年
- ・「近接施工」、地盤工学会、2011年
- ・「よくわかる実験技術・学術用語」第2版、日本実験力学会、2012年
他12編。

人物

テレビドラマ化[3]された小説「幸子」[4]の作者で医師・医学博士の関口豊三は叔父、メチルクエン酸回路の発見者で筑波大学名誉教授の田淵武士は従叔父である。

脚注

- (1)父はシーライン東京社長、東京臨海高速鉄道・三菱地所・日本バス協会等の役員を歴任した。
- (2)1945年の東京大空襲で父の家（4月13日）も母の家（3月10日）も焼失している。小宮は祖父母や両親らから空襲や戦中戦後の体験談をよく聞いた。
- (3)幼稚園の卒園文集、小学校、中学校の卒業文集に将来医師になりたいと書いている。
- (4)大学浪人最初の年に高熱が続きマラリアの疑いがあると診断され感染病棟に隔離され入院した。各種の検査・検診を受けるも病原菌が見つからず、感染病棟を出ることを許されなかったためこの年の入学試験を受けられなかった。その後破傷風菌の一種が見つかり感染病棟を出た。
- (5)長い大学浪人を経たため卒業後公務員以外への就職が難しいと考えた父の助言を聞いて土木工学科を選んだ。
- (6)博士後期課程への進学にあたっては、叔父関口と当時筑波大教授だった従叔父田淵の勧めがあった。
- (7)東京工業大学名誉教授の太田秀樹は「土の弾塑性構成則であるオリジナル・カムクレイ・モデルについて、国内外の教科書の中で本書の導出方法が最も優れている。」としている[5]。
- (8)韓国の大学教授らが翻訳した韓国語版が2015年に韓国で出版された。
- (9)本書の小宮が執筆した第18章の一部がドイツ語に翻訳され、オーストリアの *Geomechanik und Tunnelbau* 誌に掲載された[6]。

出典

- [1] *Geotechnical Aspects of Underground Construction in Soft Ground*, Balkema, p.425, 2000年
- [2] 実験力学学会誌、Vol.1、No.4、p.213、2001年
- [3] テレビドラマデータベース (http://www.tvdrama-db.com/drama_info/p/id-9305)
- [4] 主婦の友新書、1964年
- [5] 地盤工学会関東支部発表会発表講演集、pp.455-460、2007年
- [6] *Geomechanik und Tunnelbau*, Vol.2、No.2、pp. 199-208、2009年